

いつもお世話になっております。今月分の請求書を送付いたしますので、

何卒御査収のほどよろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます

5月に入り、急に暑くなったり寒くなったりの大阪です。みなさま、くるくると移り変わる気温の変化に体調など崩されていませんか。

関西では282年ぶりに金環日食が観測されました。(関東では173年ぶりだそうです) 前回観測できたのは1730年、享保15年。暴れん坊将軍でおなじみの徳川吉宗が将軍だったところです。

わたしも朝、いつもよりずっと早く家をでて、会社の近所の「難波宮跡」に行きました。すでに大勢の人が、一心に空を見上げていますが、あいにくの曇り空。雲の切れ間や層が薄くなったときに、時々ちらっと姿をみせてくれるだけです。

雲のむこうに薄っすらと見えるだけなので、日食グラスが全く役にたちません。「日食グラス無しじゃないと、見えへんやーん!!!」「わー!買わんかったらよかったー」という、私の心の叫びと同じフレーズが、あちこちから聞こえてきます。

ほんの一瞬、雲のすきまから見えるたびに「わー!でた!見える見える!きれいー!」と、みんな大喜びです。



時間がたつごとに、じわじわと周囲の光が弱まり、鳥たちはねぐらに戻るかのように、あたりの木へと移動しはじめ、日の出前のような声でさえずりはじめました。

一番の楽しみであった最大蝕の最中は、雲の濃い部分にあたってしまい、まったく姿がみえませんでした。でも、最大蝕の少しまえから、突然あたりの草花の香りが濃く匂いはじめたことには、とても驚きました。もしかすると、匂いが濃くなったのではなくて、臭覚が敏感になったのかもかもしれません。

太陽が少しずつ大きくなって、半分以上見えるようになってくると、あたりはすっかり明るくなって、雲のむこうからでも太陽の位置がはっきりとわかるようになって、ようやく日食グラスが役にたちました。太陽の力強さに、畏敬の念を新たにしました。

「日食というのは、いくつもの奇跡が重なって起きる現象」と、前日のテレビで言っていました。待ち構えていても観れなかった人、ちゃんと観れた人、興味もなかったけどたまたま観た人。その瞬間にいろんな人がいて、いろんな気持ちを感じたはずです。太陽と月と地球の奇跡、ひとりひとりの人の奇跡、色んな奇跡が多次元につながっているんだなあと、思いました。

たしかに目では見ることはできなかつたけれど、わたしの体の細胞はなにかを感じた様でした。細胞のひとつひとつが生きていることをとても喜んでいるかのようです。すごくいいスパに行ってヒーリングされたような、とても不思議な感覚になりました。

一ヶ月がほんとうに早く進んでいきます。つぎのお便りの話題は梅雨の話かもしれません。

みなさま、どうぞ初夏の気持ちよい日々を楽しめますように。気温の変化が身体に堪えますが、どうぞご自愛くださいませ。